



大錦画日々新聞紙

安房国中村の百姓の寡婦鈴

永彌生といふ子供

新刊



三人の御寺の住持と

不義にして花も弥生の

うん梅 陽 気落気

の春心又此家

の後見蓋屋門

馴そあつろを男の

母房をうつけて

後見のやみを云一よを弥生を全更面目を男が

しるも如泊り来るをモシ善きんまじとをの正中がやん

へ知ると大泳をせぬ思ひ切て下されと云ふ男の逆上りり和尚の

心ざう立ちとりの弥生の毛刀取出し切し血がまじりて死るとそなそのり

ちそがを丈夫なあしとりの取る拍子女小疵がほじり

騒み子供起出てさあさあうらふ疵をうけ女の

只逃出てまうと高声お男のいしくと気が狂ひ

ゆる小天網の罟ののろく事恨もは西入御志上自状りし蓋屋門の集首弥生の

子供三人実殺し逃ん

懲役申渡されり

名情慎の弟

と讀賣

九十八号の出元

ナリ九一

新刊

岡土受取